

# 沈黙の風景－木嶋良治 運河を描き続けて

故郷小樽を中心に、「北方性」と「雪」をテーマに描き続けてきた画家、木嶋良治。

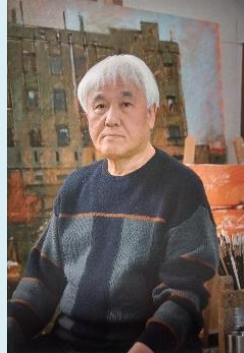
その画業のなかで、特に1970年代から取り組まれた小樽運河は、木嶋のライフワークとなりました。大学進学を目前に、結核で胸を病んだ木嶋は、休学中の挫折感から運河を散策し、孤独のなか絵を描くことで、心の傷を癒しました。

運河の水面に映し出される建物の影は、鏡に映ったように美しく見え、木嶋は年月を経て澱んだなかに繊細な美しさを発見していきます。水面は自身の心の内側を表す鏡でもあり、その時々心のありようが反映されました。

その後小樽を離れて、運河が埋め立てられても、感情や思考を自由に表現できる運河は、題材として切り離すことはできず、たびたび訪れては大作が描かれ、代表作が生まれ出されます。原風景として描き続けた運河は、やがて「水と建物」にフォーカスされ、さらに近年は運河に面して建つ北海製罐や軟石の倉庫群が水辺に落とす「影」そのものをテーマにしています。

一方で、長期海外取材の旅でモチーフの広がりも見せました。ヴェネツィアの運河によって“水辺に落ちる建物の影”は、画面のなかで緊密に構成され、一層高い完成度を示しています。

本展は、小樽運河 100 年を記念し、簡潔な構成と詩のような叙情性をあわせもつ独特の風景画を確立した、木嶋良治の世界を展覧するものです。



木嶋良治  
Photo: Masaki Nakai

1936 年小樽に生まれる。1960 年道展初入選。1962 年北海道学芸大学(現北海道教育大学)特設美術課程卒業。道展奨励賞受賞、以後ホクレン賞、会友賞を経て、1968 年道展会員。北海道青年美術家集団、北海道アンデパンダン展に参加。1970 年北海道札幌東高等学校教諭。1973 年二紀展出品。1976 年「札幌時計台文化会館美術大賞招待展」出品。「北海道秀作美術展」(道立近代美術館)出品。1978 年二紀会同人(1999 年退会)。1979 年「二紀会選抜展」「HBC 新春招待作家展」「市立小樽美術館開館記念展」出品。ヨーロッパ取材旅行。1981 年北海道札幌南陵高等学校教諭。1985 年「イメージ水・北海道の美術 1985 展」出品。1989 年「大丸ギャラリーと芸術家たち展」出品。1992 年「さっぽろ美術展」(~2000 年)出品。1997 年北海道女子短期大学工芸美術学科、幼児教育学科非常勤講師。北海学園大学建築学科非常勤講師。2000 年浅井学園大学非常勤講師。2004 年市立小樽美術館市民ギャラリーで代表作 42 点による個展開催、同時に講演会「自作を語る-北の風土を描き続けて」(市立小樽美術館)を行う。2007 年道展退会。札幌芸術賞(札幌市)受賞。2012 年「心の原風景-風土への賛辞 木嶋良治展」開催(市立小樽美術館)。



《木嶋良治 冬の日 1993 年》



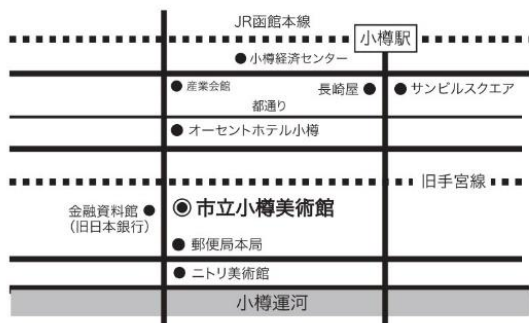
《木嶋良治 冬の日 1989 年》



《木嶋良治 雪の街 1989 年》



《木嶋良治 冬の日 1997 年》



市立小樽美術館  
otaru city museum of art

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号  
電話 0134-34-0035 fax 0134-32-2388



《小竹義夫 運河 1947 年》

小樽運河 100 年【part II】

## コレクションで見る小樽運河

令和4年度新収蔵品のご紹介(一部)

5/4THU - 5/14SUN (休館:5/9, 10, 11)

10:00 - 17:00 (最終日は16:00 終了)

### 市立小樽美術館市民ギャラリー(1・2)

小樽の繁栄の象徴、人々の生きた証である運河を、兼平英示・小竹義夫・渡辺祐一郎・金丸直衛・石塚常男・富樫正雄・高森捷三らの作品で振り返ります。